
CRAZE-DANCE-OF-HERO

レイスリー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CRAZE—DANCE—OF—HERO

【Nコード】

N3065N

【作者名】

レイスリー

【あらすじ】

かつて世界は 神々の住むセルフイア、 闇の一族が
住むゼクリア、人間が住むアクリア に分れていてそれ
ぞれ魔法によって大いなる文明を築き上げていた。 だが
一人の男が三つの世界に災いを持ちこみ、世界は滅ぼそうとしたが
神と人間によって止められ、災いと共に封印し世界は守られたしか
しそれから400年後
封印が解かれ災いが目覚めようとしていた。
その災いの力がある少年が手に入ってしまった・・・（木下 礼さ

んと合同で作っています)

登場人物紹介（前書き）

はじめまして！レイスリーと申します。

今回初めて小説を書きました。ですから少々へんなところがあると思います
どうぞよろしくお願いします！

登場人物紹介

アクト・リークライト

年齢・16歳

血液型・B型

使用武器・剣^{ブレイド}攻撃属性・闇

現代に蘇ったかつて世界を

滅ぼした力を手に入れた少年

性格は軽く常に余裕を持っているが抜けているところが多い

リア・ハーツ

年齢・15歳

血液型・A型

使用武器・二刀流（太刀・小太刀）

攻撃属性・炎・氷 かつての大魔導の娘

性格はおとなしくおだやかで優しいが筋金入りのしっかり者で曲がった事が大嫌い

ロニ・クラブハート

年齢・16歳

血液型・AB型

使用武器・レガース・グローブ

攻撃属性・光

アクトの幼なじみで格闘家大の女好きで会う女性会う女性に声をかける

男には態度が冷たい

登場人物紹介（後書き）

次回から本格的に書きはじめます。
更新は遅めですがよろしくお願いします

プロローグ（前書き）

更新遅れてすいませんでした。短いですがプロローグです

プロローグ

かつて世界は

神々の住むセルフィア、闇の一族が住

むゼクリア、人間が住むアクリア

に分れていてそれぞれ

魔法によって大いなる文明を築き上げていた。

だが一

人の男が三つの世界に災いを持ちこみ、世界は滅ぼそうとしたが神と人間によって止められ災いと共に封印し世界は守られた。世界はそれから400年平和が続いた。

しかし災いの封印は徐々に解け世界を再び蝕めんと動きだしていた。

物語はとある小さな収容所から始まる……

プロローグ（後書き）

次の更新までまたしばらくかかります。
ではまた次のお話で！

第一章・1話 e s c a p e (前書き)

更新遅れてすいません。

資格試験の勉強とかがあってなかなか投稿できませんでした。

それでは駄文だと思いますがどうぞお読みください。

携帯の方は見にくいかもしれません。

第一章・1話 e s c a p e

世界の中心があるとすればこの『ストナージ収容所』は世界の端である。

収容されている人々は朝から夜遅くまで看守たちに見張られながら強制労働させられている。

物語はここから始まる……

「待て――――！！！！！！」

「止まれ――――！！！！！！」

「轢かれたくなかったらどきな！！」

アクト・リークライトは同じ部屋のロニ・クラブハートと共に看守から奪ったバイクに乗って門から脱走しようとしていた。

「今回はうまくいきそうだなアクト！！！！」

「ああ！今日こそここから出てやるぜ」

「貴様らー！また脱走かー！！」

「げっ！看守長！」

そこには槍をもったこの『ストナージ収容所』の看守長が立ちふさがっていた。

「ここからそう簡単に出られると思うな！！！！！！」

「どうするアクト!？」

「仕方ないここは突っ切るぞ!!」

バイクの速度を上げアクトたちはそのまま突っ込んでいったが、看守長はそんなものをものともせず、勢いよく槍を振るい二人をバイクからたたき落とし、二人の首に槍を突き付けた。

「これで五度目だな、脱走するのは・・・」

「あーあこれで五度目だな、邪魔されるのは」

アクトは看守に縛られながら皮肉のように言った。

「黙れ! 誰が貴様らを養っていると思っているんだ!」

「ヘン! 誰が養ってくれと頼んだ! 養う気があるんならもっと丁重に振る舞えよ!」

ロニもすかさず反論する。

「俺達は何を言われてもこっから出るんだ!!」

看守長はそんな二人の様子を見て言い放った。

「そうか、そんなにここから出たいか。なら出してやろう。ただし死体でな!」

「何!!」

「おい!こいつらを牢に閉じ込めておけ!明日の朝、処刑を行う!」

第一章・1話 e s c a p e (後書き)

感想、ご意見待っています。

2話 encounter (前書き)

大変更新が遅れてしまい申し訳ありません
ちよつと体調を崩して一か月ほどパソコンに向かえませんでした

2話 encounter

看守たちによる拷問を終えアクトたちは牢の中に戻っていた。
その体には生々しい傷が残っていた。

「まったく、お前のせいで俺たちの命は明日終わることになったぞ。
あーあまだやりたいことが山ほどあったのによ」

ロニは嫌味っぽくアクトに言う。

「まあいいけどよ。なあ、どうしてお前はそこまでして外に出たがるんだ？何か理由があるのか？」

「うるせーな、あったとしてもお前には絶対言わねーよ。よし！開いた！」

アクトは牢屋の鍵開けそう答えた。

「おいおいまたしょうこりもなく脱走する気か？」

「お前は出たくないのか？」

「そうとは言ってねーな」

「よし！じゃあ行くぞ！今度こそここから脱出するぞ！」

「おう！」

二人は牢屋を抜け出し門へ向かったがそこには看守たちが警備を固めていた。

昼間の事で警備を強くしたのだろう。

「どうする？」

「ここは無理だ。裏に回るぞ」

「そこまでだ！」

「「!!」」

その声に二人が後ろを向くとそこには看守たちを従えた看守長が槍を構えていた。

「くそ！気づかれていたのか！」

「速すぎだろ！」

アクトたちは行く手を阻まれ、囲まれてしまった。

「ふん！お前らの考えていることなんぞすぐに分るんだよ！」

「チッ、今回だけは邪魔させないぜ！」

そう言うときアクトは近くにいた看守を殴り槍を奪い看守長に向けた。

「おりゃあー！」

ガキン！ 勢いよく槍を突き出すアクト。

それを自らの槍で受け止める看守長。

これから激しい戦いの火蓋が切って落とされると思われたが・・・

ドカーン！！

突然、後ろの塀が崩れ一人の少女が現れた。

「なんだお前は！！」

看守長がアクトたちのことを警戒しながら少女に訊ねた。
すると少女は

「早く逃げてください！！奴が来ます！！」

と言い、塀の外に出ようとしたが・

ガシャン

塀のところには青い甲冑に身を包んだ騎士が立っていた。

騎士の周りには看守たちが倒れていて、たった今最後の一人が串刺しにされていた。

その騎士の持つ黒き剣は禍々しい気を放ち、まるで生きているようだ。

そして少女に向かって歩き始めたが

「なんだ貴様は！！何故部下を殺した！」

看守長が騎士の前に立ちふさがり槍を向けて言った。

騎士は静かに剣を天に向けた。すると月明かりが輝いていたはずの空に黒雲が広がり

雷鳴が轟き始めた。次の瞬間、騎士の剣に向けて一斉に雷が落ち、騎士の体が青く光った。

「私の邪魔をしないでほしい。」

「雷光滅碎剣」

騎士はいつの間にか看守長の後ろに回りその体を切り裂いた。
そして騎士は少女に剣を向けた。

「ようやく追い詰めました。我々からはそんなに簡単に逃れられません。あなたの持つ秘宝を渡して頂けますか？」

「いいえ渡しません！これは陛下から預かった重要な物です。だから私は絶対に守ります！」

少女も騎士に向け二本の刀を構え戦闘体勢になる。
一方アクトたちはまだ何が起きているのか分からずその様子を見ていた。

「あいつなんだよ、看守たちを簡単に殺っちまった」

ロニは騎士の力に驚いていた。

「あの子はまさかあの時の…いやそんなはずは…」

しかしアクトは騎士の事よりあの少女に驚いていた。

「おい、どうしたアクト？」

「いやなんでもない（たぶん気のせいだ）」

「ならいいけどよ。それよりどうする？今なら看守がいなくなっ
て逃げるのに絶好のチャンスだぜ」

確かにあの騎士が塀を壊したので簡単に脱出できる。

それに加えて今騎士は少女の方に気を取られている。これほどのチャンスはない。

しかしアクトはニヤリと笑って

「いや。このまま他人の助けで逃げるのは俺のプライドが許さないな」

「そう言うと思ったよ。俺はお前にどこまでもついて行くぜ」

「よしあの子を助けに行くぞ！」

2話 encounter (後書き)

感想・ご意見おまちしています

今後ともこの小説をよろしくお願いします

3話 t a c t i c s (前書き)

あけましておめでとうございます。
今年もよろしく願います。

更新が大幅に遅れてしまい大変申し訳ありません。
読みにくいかもしれませんがどうぞご覧ください・・・

3話 tactics

「よしあの子を助けに行くぞ！」

「待てよ・・・」

アクトは少女を助けに行こうと瓦礫の山から降りようとしたがロニに止められた。

「どうやって助けるつもりだ？さすがに槍とか素手で突っ込むんじゃない、あの騎士に簡単にやられちまうぞ・・・」

ロニは冷静に言った。

「じゃあどうすればいいんだよ？なんかお前にあるのか？」

アクトの質問にロニはニヤリと笑って、

「俺に考えがある。この瓦礫の山を利用した、作戦ってのはどうだ？」

「二手に分かれてあの子を助けるんだ」

「どうゆうことだ？」

不思議な顔をしているアクトにロニが説明する。

「つまりはだ、相手の死角をつけばいい話、ってこと、まず斜面を利用して、死角を作る」

「具体的にどういう事をすればいいんだよ？」

「昔、ある東洋の国のみなものー・・・よしつね？だっけな、そいつがよくその戦法を使っているそうだ」

「大きな山から、馬を使って一気に駆け下りる、油断している敵軍に奇襲ってわけさ。」

「なるほど」

ようやく納得したアクトだがロニが新たな問題を持ち込む。

「しかし、だ、大きな瓦礫の山からどう、滑り降りるか、だ。瓦礫には基本鋭利な物質が含まれている、いや、ケイ素が含まれているからな、まあどうってことあねえが、転げ落ちたら、大けがだ」

「だめじゃん」

「そこが問題なんだよ。そこをどうするかが・・・」

腕を組み悩んでるロニにアクトが提案をする。

「じゃあさ、この瓦礫をそのまま投げるってのはどうよ？」

「おっ！お前にはいい考えだな。よしそれでいこう！」

ロニはアクトの提案に乗っかりその案で進めた。

「誰が瓦礫を転がす？」

「俺がやろう。アクトはそのすきにあの子を助けるんだ」

「分かった。よし！じゃあ作戦開始だ！」

そう言って二人は行動を開始した。

・ ・ ・

一方、少女リア・ハーツはあの騎士と対じしていた。

騎士の振る魔剣に対しリアも自らの双剣で迎え撃ち、すきを見つけ
ては攻撃をしかける。

リアは魔法が使えるが、もう今までの戦闘で魔力が切れかかってい
て、もはやギリギリの状態だった。

「もうそろそろ、あなたも限界が近いのではありませんか？」

「ハア・ハア・まだ負けるわけにはいきません・・・」

「あなたも諦めが悪いですね。ですが次の一撃で決めさせてもらい
ます！」

騎士は魔剣を構え、その刀身に魔力を込め始めた。

（もうさすがに押さえきれない。くっ、ここで終わってしまうの？）

「これで終わりです。さようなら」

「くっ・・・」

リアが最後を決めたその時

「おい！鎧野郎こっち向け！」

突如、瓦礫の山から声がしたかと思うと、巨大な瓦礫の塊がこっちに転がってきた。

リアは何が起こったのかまだ理解できていなかった。

「おい！こっちこい！」

その直後、誰かに腕を掴まれ引き寄せられた。

ドカーン ガラガラ ガシャー

そしてあたりは静寂に包まれた。

3話 t a c t i c s (後書き)

今回はだいぶ話がぐちゃぐちゃになってしまいました。
次はすつきりするように努力します。

感想 ご意見 お待ちしています。

4話 **b a t t l e** (前書き)

更新、大変お待たせいたしました

資格試験などが重なり

なかなかパソコンに触れる事ができませんでした？

それではどうぞ

4話 battle

アクトはロニが瓦礫を準備している間に、瓦礫の山を降り少女に近寄るとロニに合図を送った。

ロニは勢いよく騎士に向けて瓦礫を放り投げ、そのタイミングでアクトは少女を安全な場所へ引き入れた。

辺りは砂煙に覆われて様子はわからないが、

騎士にも多分、相当なダメージを与えられただろう。

しかし、

「こんな子供騙しで私を倒せると思ったら大間違いだ」

砂煙が晴れそこに見えたのは無傷の騎士と瓦礫の山だった。

その手に握られた剣からは強大な魔力を感じる。

「私の邪魔はしないでいただきたい」

騎士はアクトに向けて剣先をつける

「なんだか偉そうな奴だな。お前何者だ？それにその剣なんだ？気持悪いな」

アクトは少女を物陰に隠れさせ、騎士を挑発する

「ふっ・・・生意気な小僧だな。しかし冥土の土産に教えてやろう！私の名はレオニス！ゼクリア騎士団の長にして、雷帝の名を持つ者！」

騎士、レオニスはそう言って名乗った。続けてレオニスは言う

「そしてこの剣は魔剣ソウルエッジ！かつて世界を戦乱の世に追いやった

六つの魔装備の一つだ・・・」

レオニスはアクトに言う

「それで、貴様は何者だ？何故私の邪魔をする？」

アクトは笑みを浮かべながら短く答える

「俺はアクト・リークライト、何故かって？あの子を守るためさ」

「ほう・・・では最後まで守って見せろ！出でよ！ライトニングウルフ！」

レオニスはソウルエッジから三体の狼のような魔物を出現させた

アクトは近くの死体から剣を一つ拾って構えた

「こんなふざけたヤツ、楽勝だぜ！」

アクトは飛びかかってくるライトニングウルフに向けて剣を振るう
そして三体とも見事に撃破した

「さあ！次はお前だ、レオニス！」

「なかなかやるな、だがその程度では私には勝てん！」

レオニスはソウルエッジを構え一気にアクトへ間合いを詰めた

「何!!！」

アクトはあまりのスピードに動揺してしまい対応に遅れてしまった

「遅い！『雷皇剣』！」

レオニスは帯電させたソウルエッジを目にも留らぬ速さでアクトの
胸を貫いた

4話 **b a t t l e** (後書き)

今回初めて、戦闘シーンを書いてみました。

誤字、脱字などのご指摘や感想、ご意見お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3065n/>

CRAZE-DANCE-OF-HERO

2011年10月6日03時56分発行